

日本国内で核医学診療に
従事する女性の現状と課題
—なでしこの会全国実態調査結果—



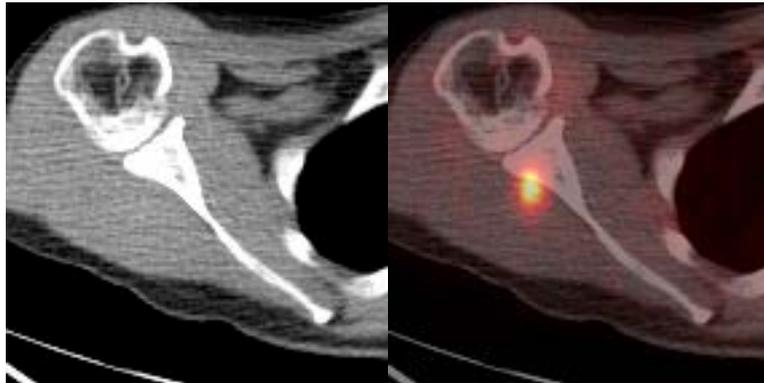
日本核医学会 評議員 大野和子

核医学診療

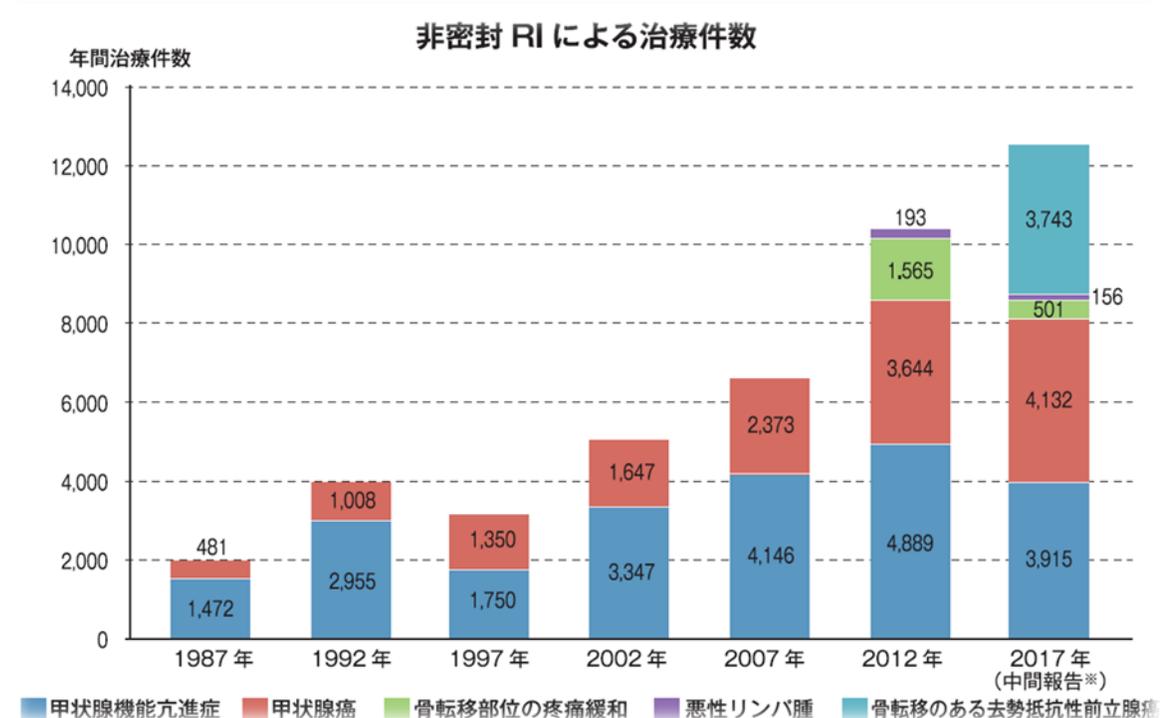
シンチグラフィ検査・PET検査・放射性医薬品を用いた治療

医師・診療放射線技師・看護師・薬剤師がチームで診療

紹介患者がほとんどを占める



^{68}Ga -DOTATOC 京都大学中本先生提供



日本核医学会なでしこの会

日本核医学会；1964年発足

会員数36,000名

なでしこの会；2011年発足

女性会員の交流目的



一般社団法人 **日本核医学会**
JSNM Japanese Society of Nuclear Medicine

HOME

学会案内

役立つ情報

学会案内

認定制度

医師

歯科医師

診療放射線技師

看護師

薬剤師

施設

役立つ情報

会費

ガイドライン

利益相反COI

入会案内

2018年度女性会員実態調査WG

大野和子（京都医療科学大）

内山眞幸（慈恵医大：なでしこの会会長）

塚本江利子（セントラルCIクリニック）

奥山智緒（滋賀県立総合病院研究所）

川本雅美（ゆうあいクリニック）

吉村真奈（東京医科大）

三宅可奈江（京都大）



SNMMI（北米核医学会）

女性核医学診療従事者の会（WISNMMI）あり

参加者は医療関係者のみでなく、企業の女性も参加し

核医学診療に関与するあらゆる女性の会

ホームページ運営、インスタグラムによる情報発信

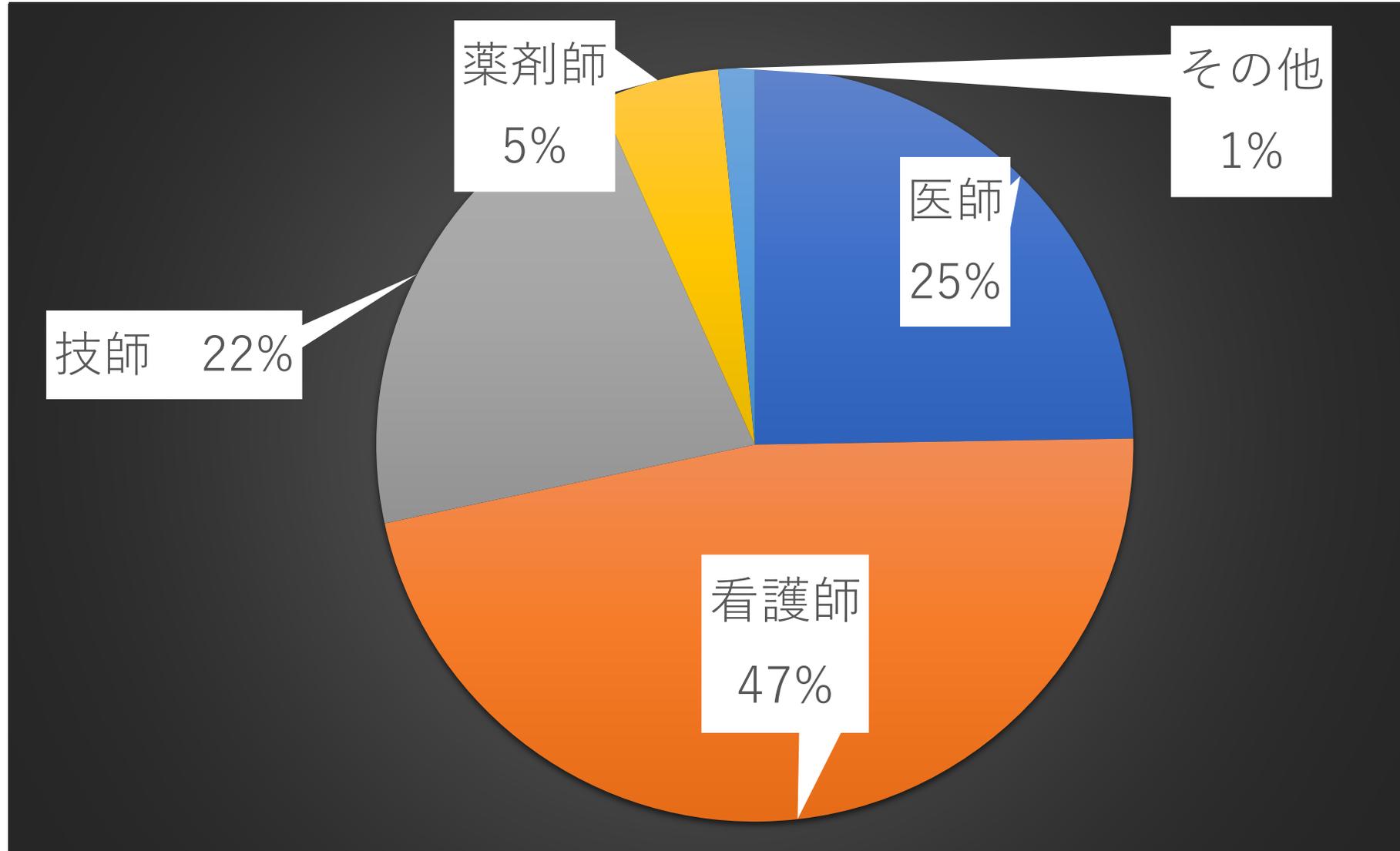
総会時にセミナーやグループワークを開催

テーマはキャリア支援、勤務上のリスクなど種々

日本核医学会　なでしこの会との交流

アンケート結果 1

職種(206名)

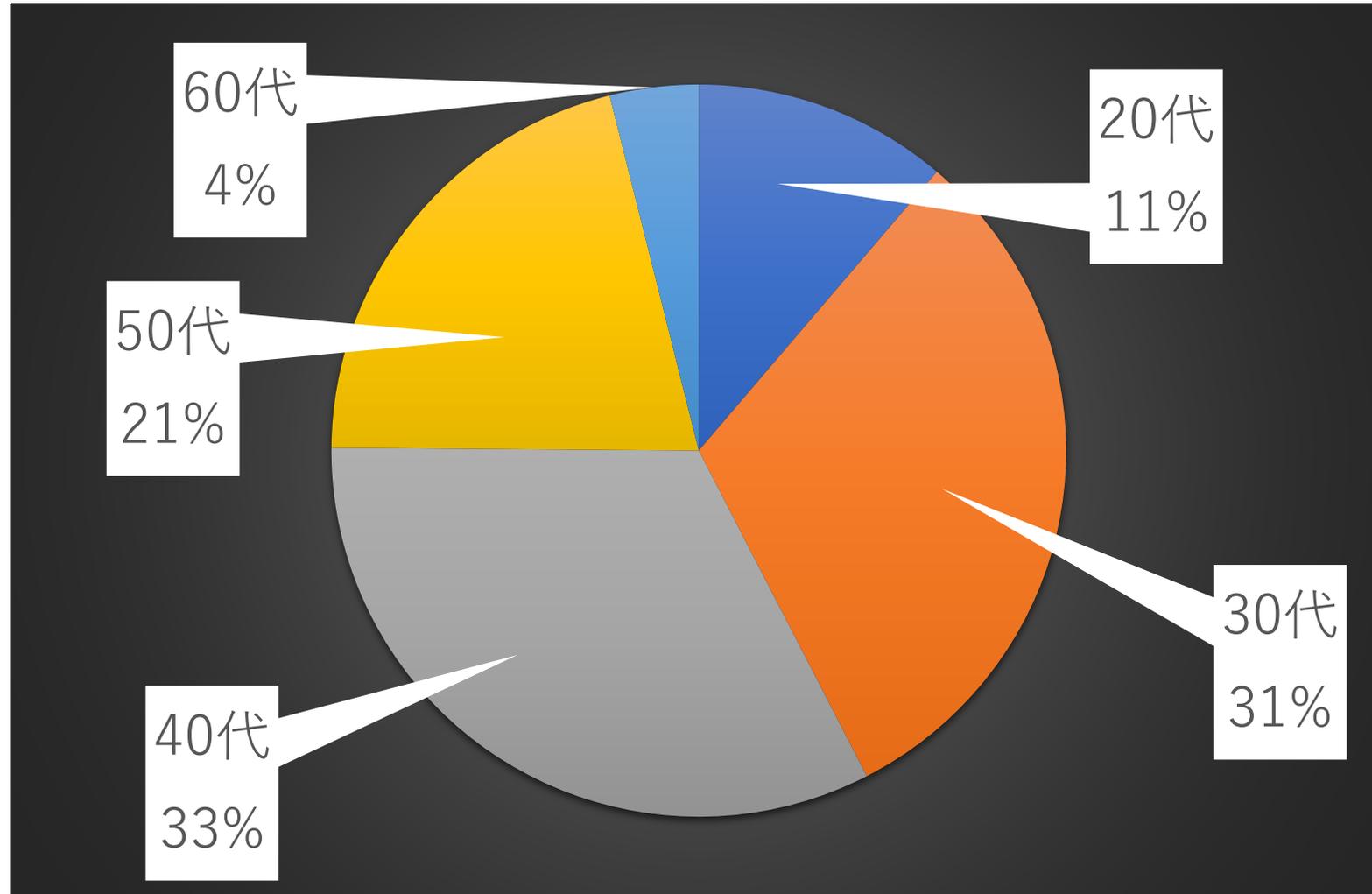


核医学診療に
関与する
全職種が参加

その他は
研究補助
R I 受付業務



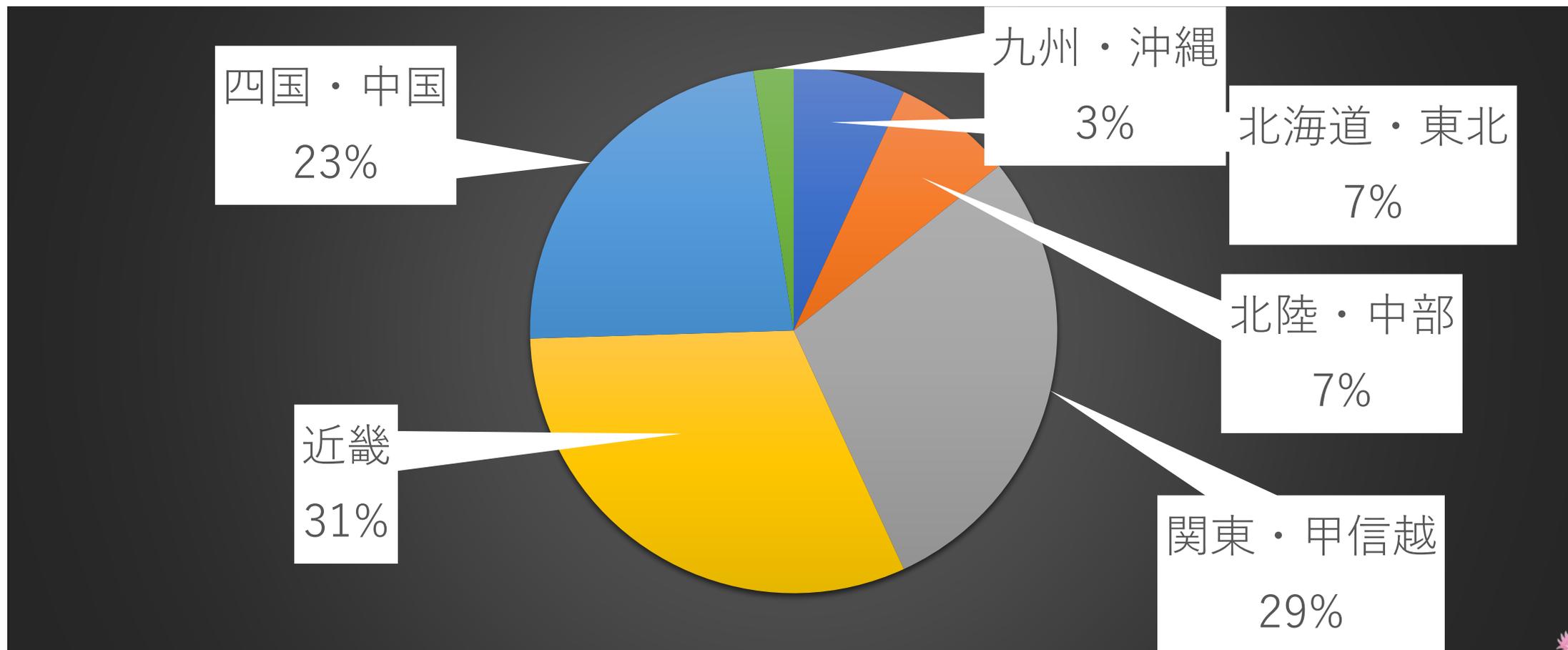
アンケート結果 2 年齢分布 (206名)



偏りのない
年齢構成



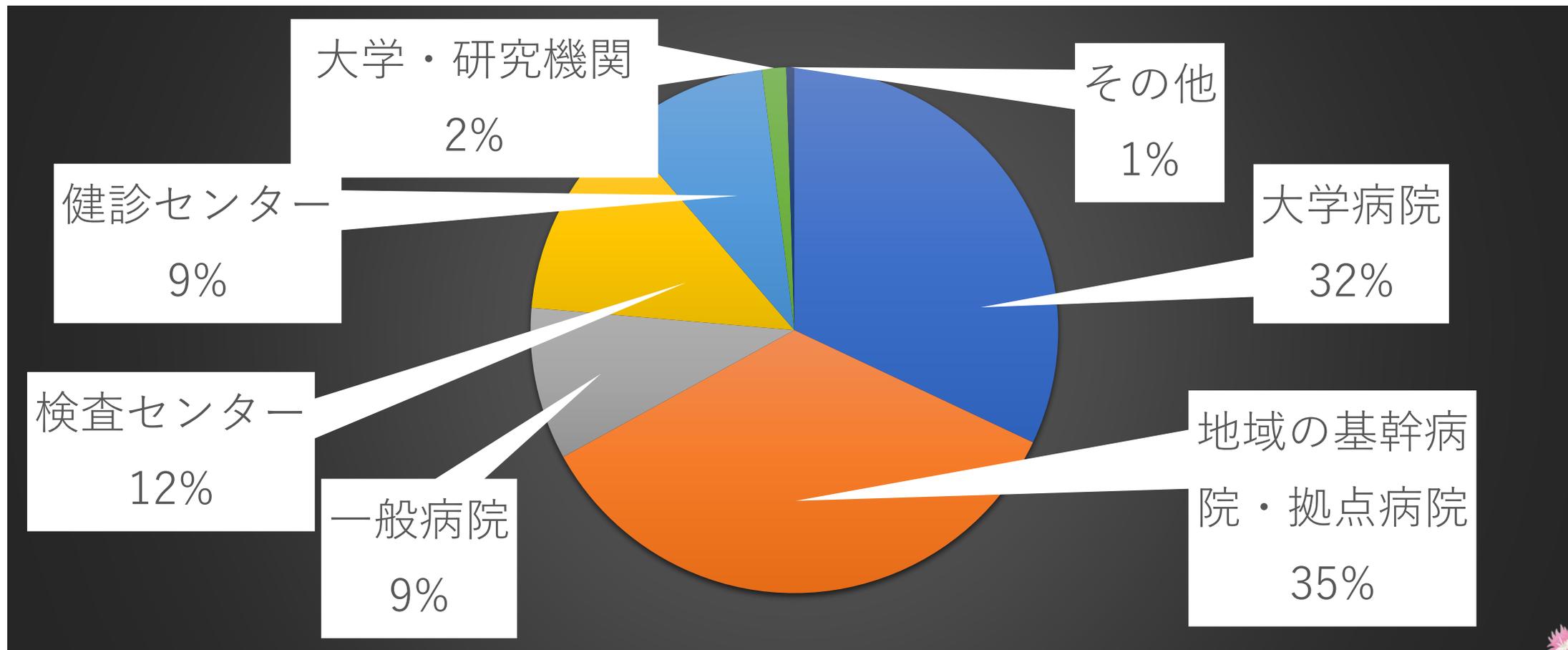
アンケート結果 3 勤務地域(206名)



日本全国から集まりました



アンケート結果 4 勤務先形態 (206名)

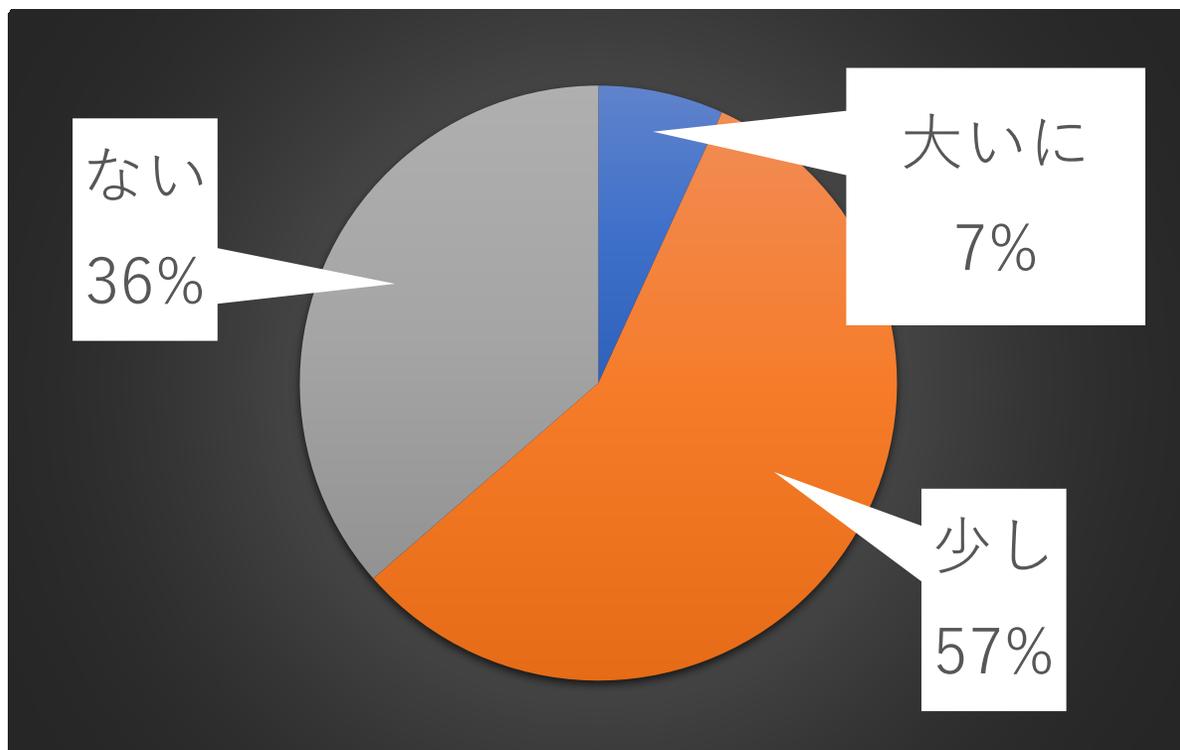


病医院勤務が多くなります

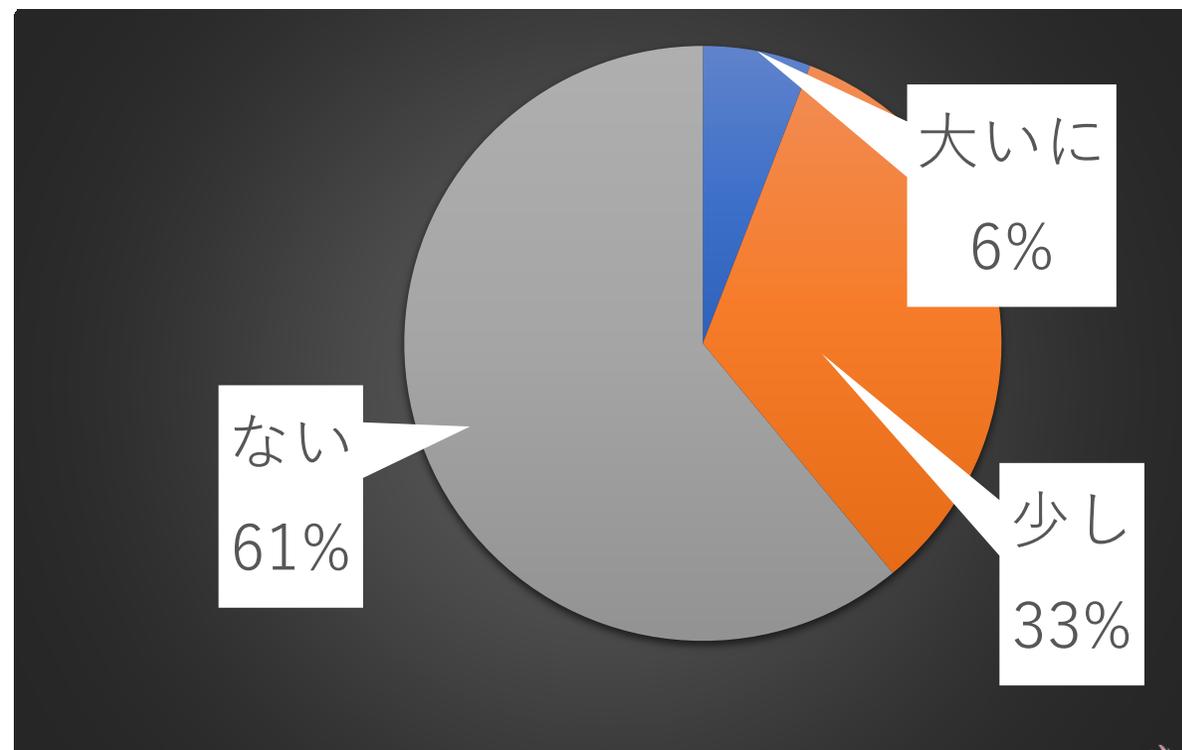


アンケート結果5 職業被ばく 被ばく不安 (206名)

回答者本人



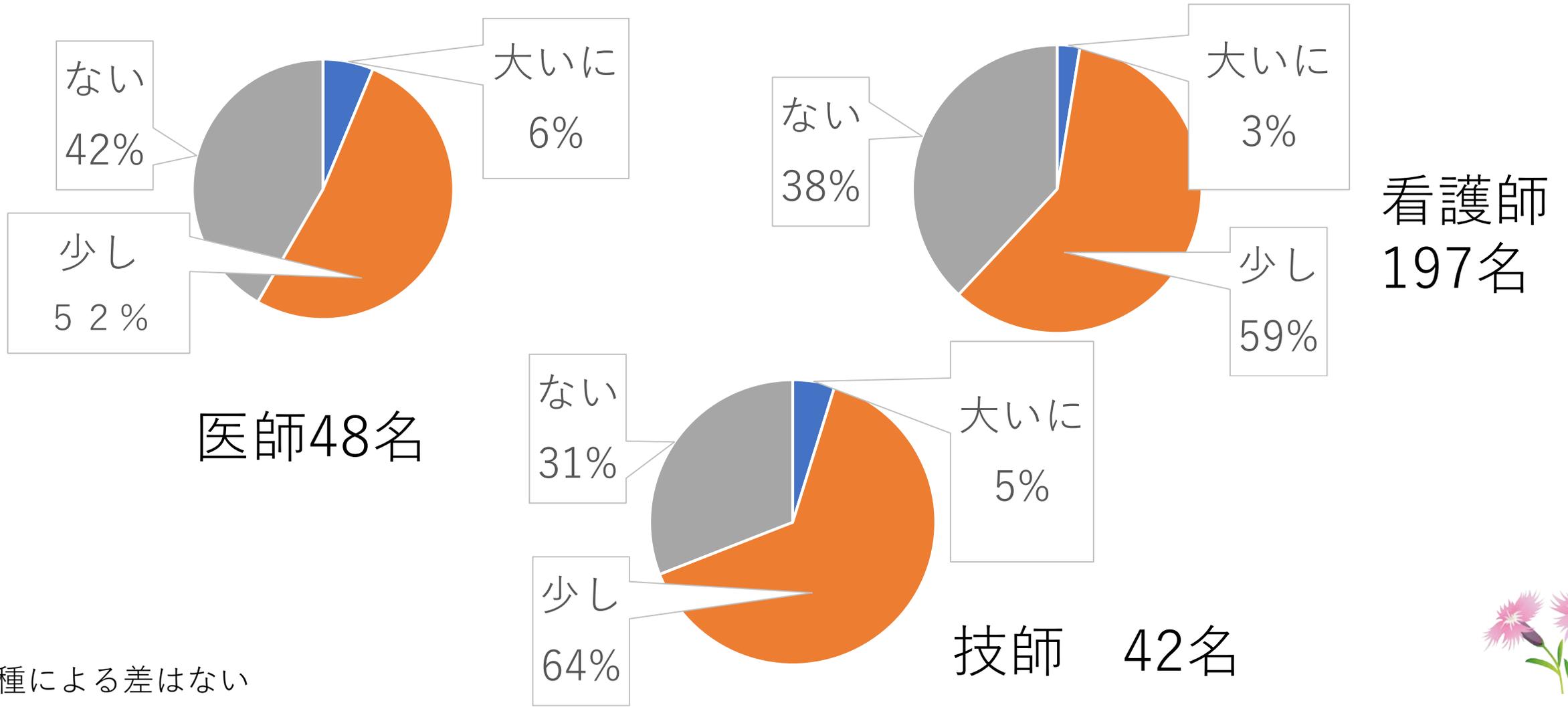
回答者家族



本人より家族の心配がないが多い結果になったのは興味深い



職種別 職業被ばく 被ばく不安

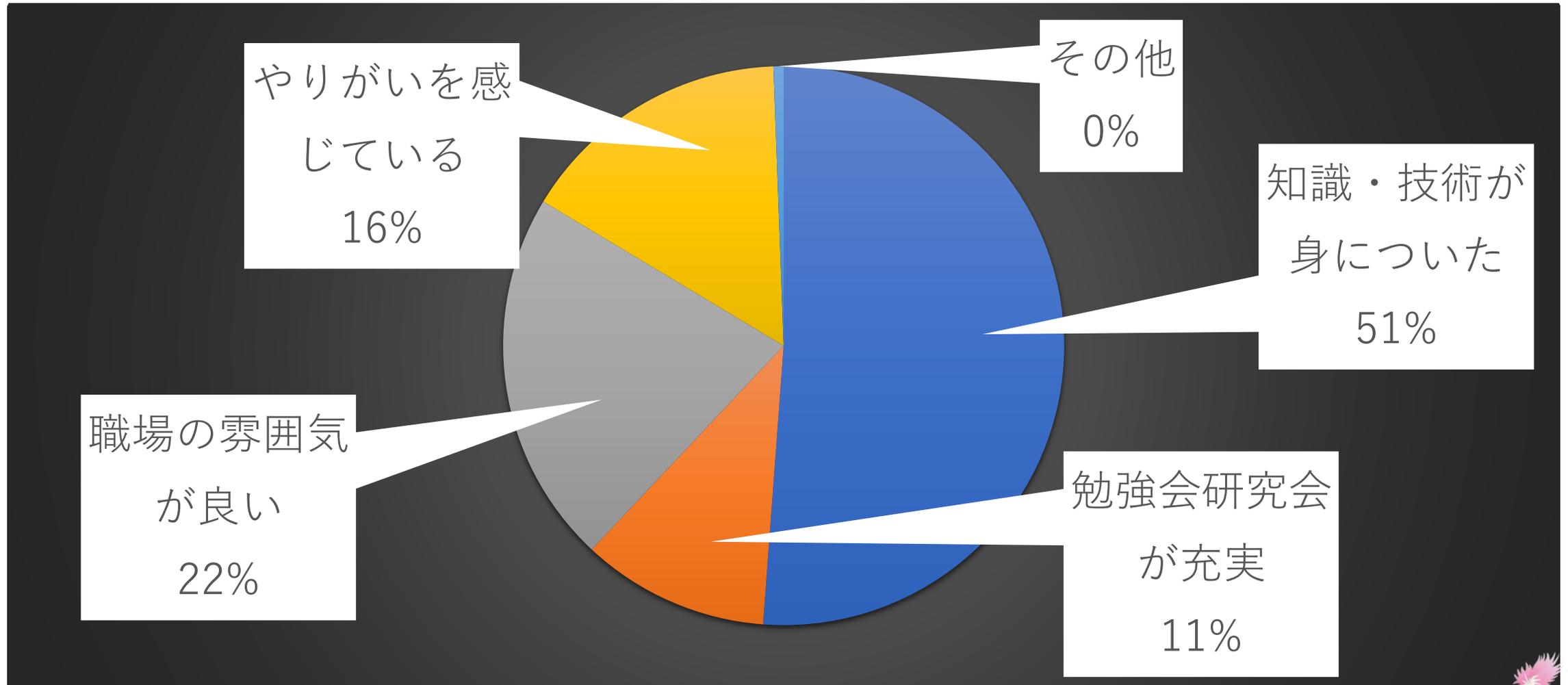


職種による差はない



アンケート結果 6

核医学診療従事者のよい点（206名）

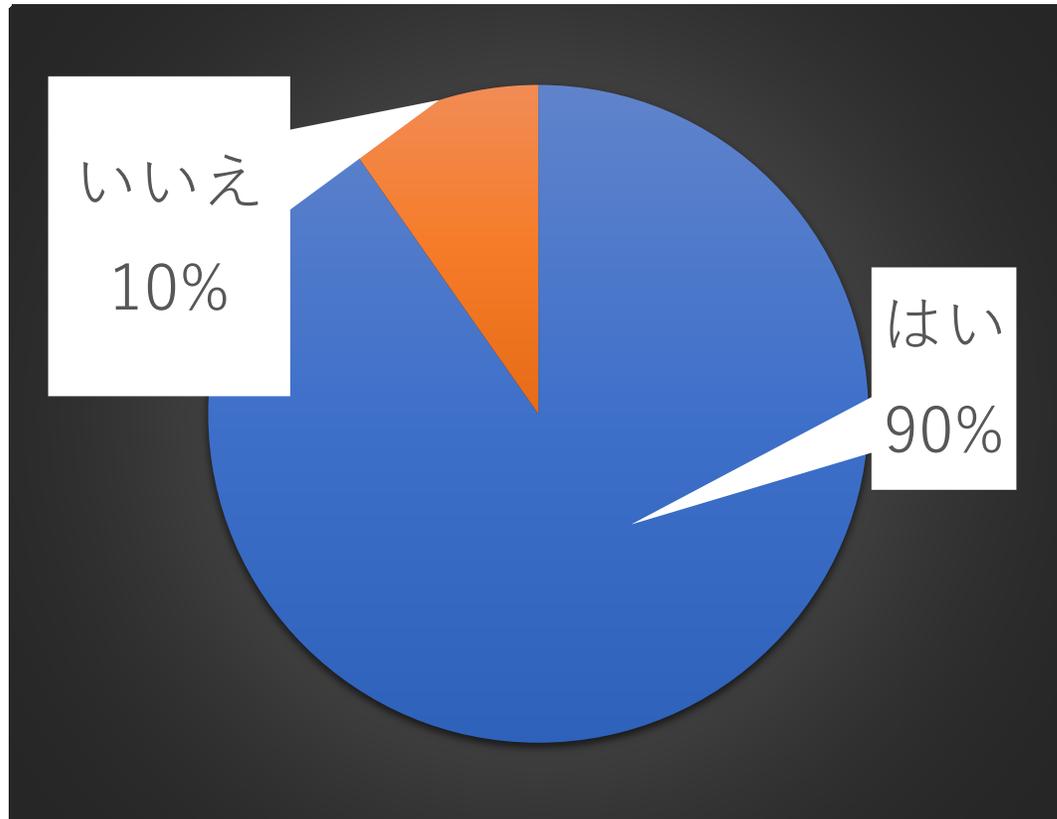


R I を学んで面白かったということでしょうか。調査では良い点しか聞きませんでした

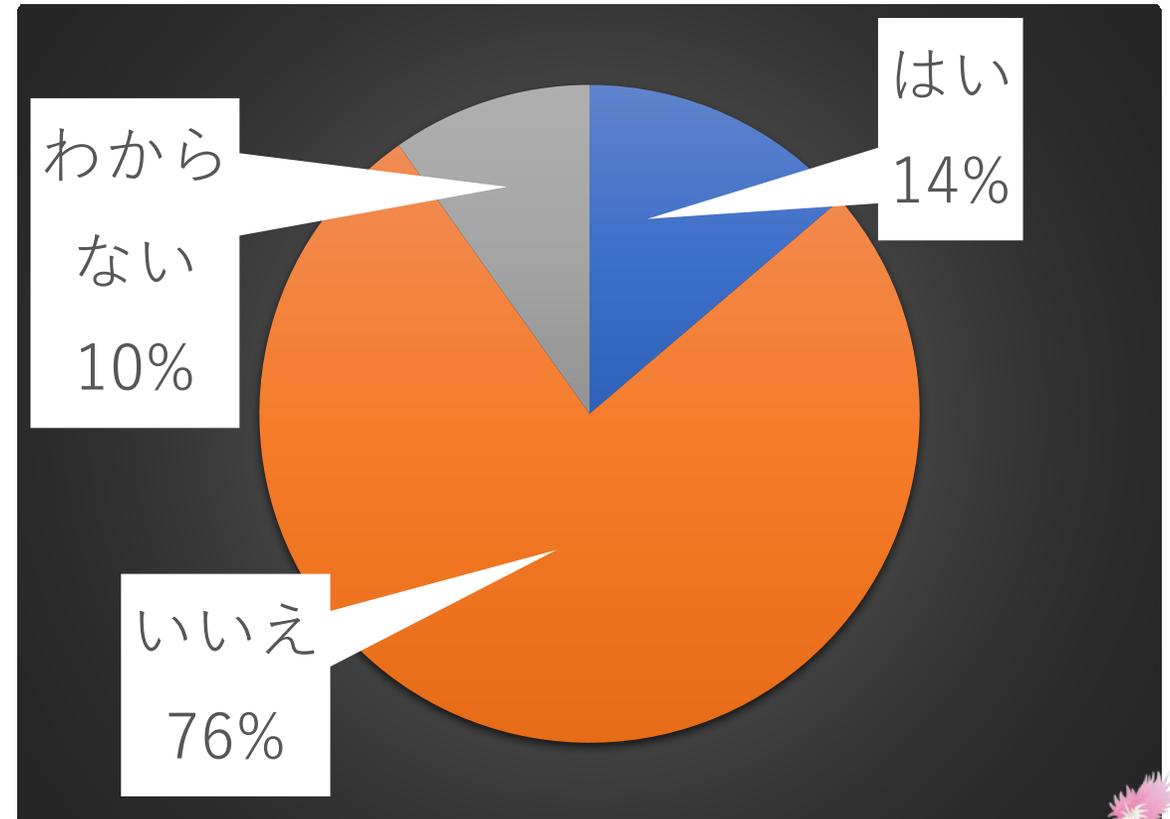


アンケート結果 7 職場環境

女性上司の有無(206名)



セクハラ経験の有無(204名)

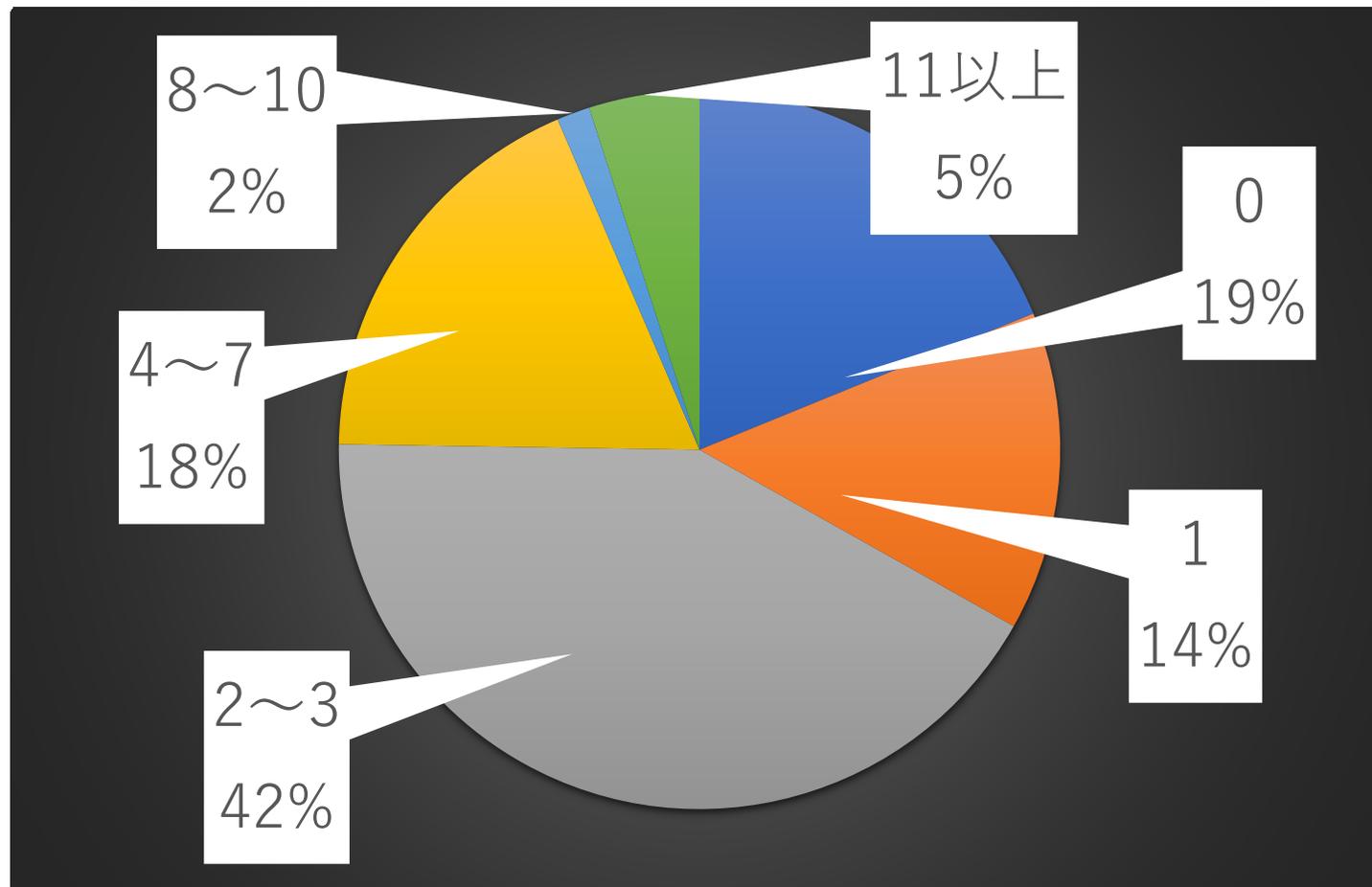


一般社会で女性の役員が20%を下回る現在、看護師の割合を考慮してもこの上司の女性比率は高い。



アンケート結果 8 研究支援(206名)

研究会・学会参加回数／年



参加を妨げる
三大理由：

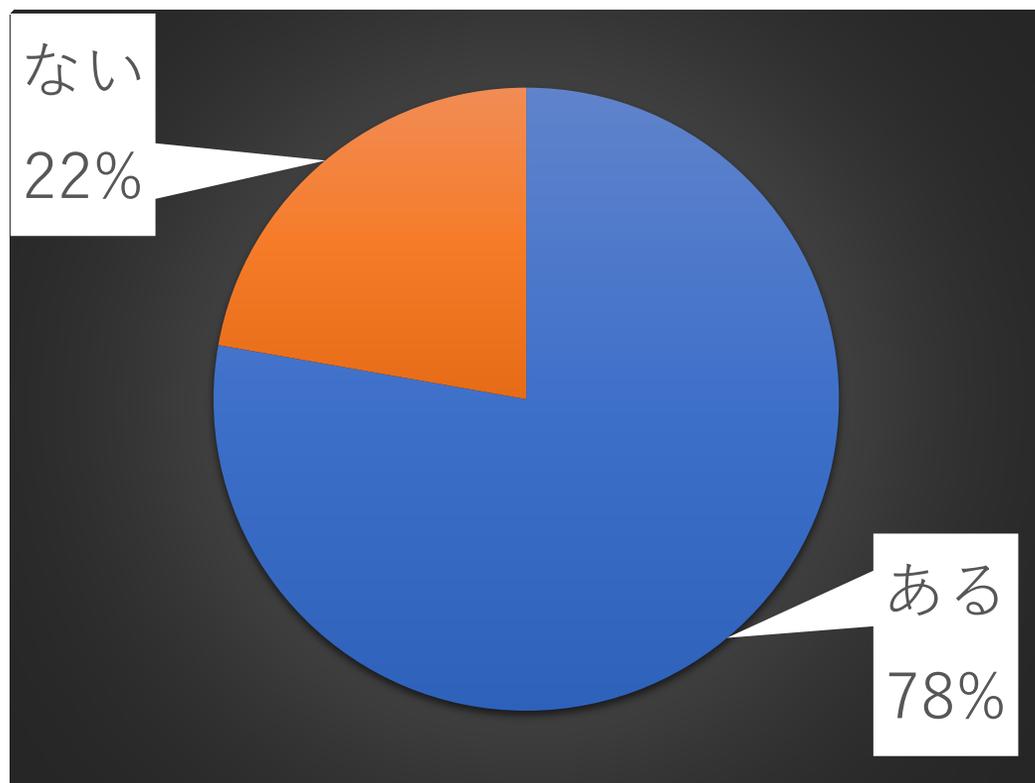
勤務の都合
参加費が高額
家庭の都合

(3つの合計 90%
以上、各約 3割)

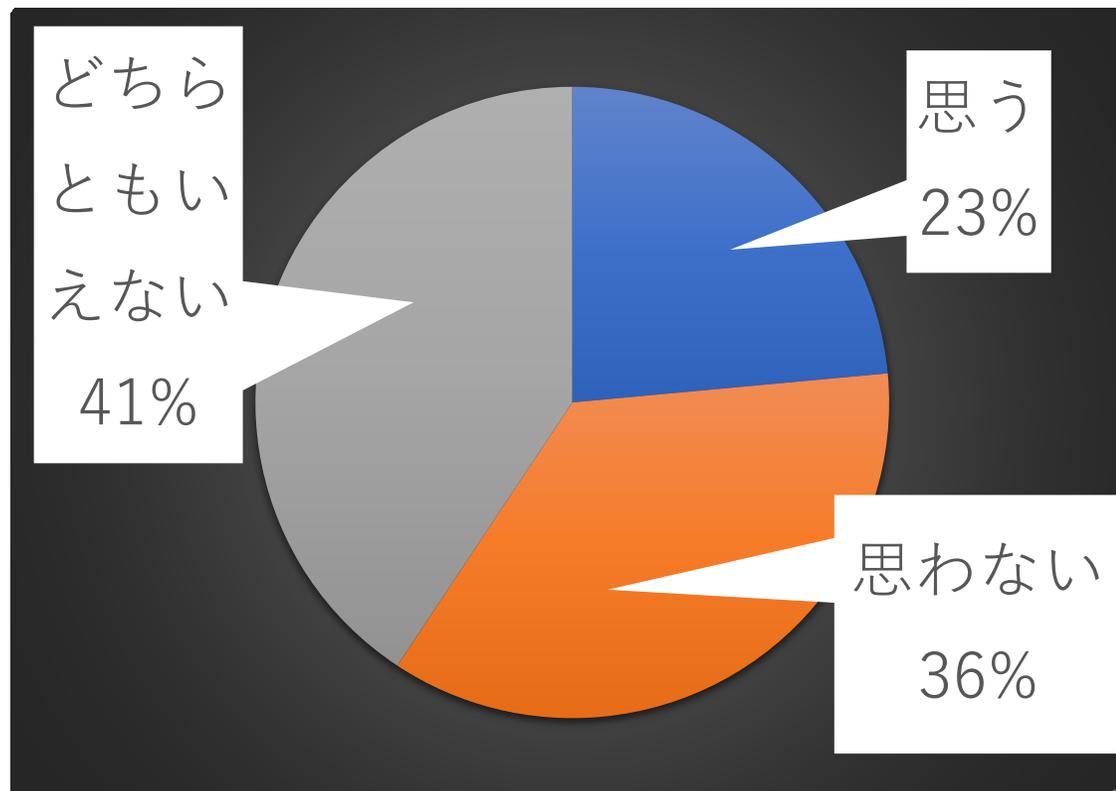


アンケート結果 9 育児休暇 (80名)

育休取得経験



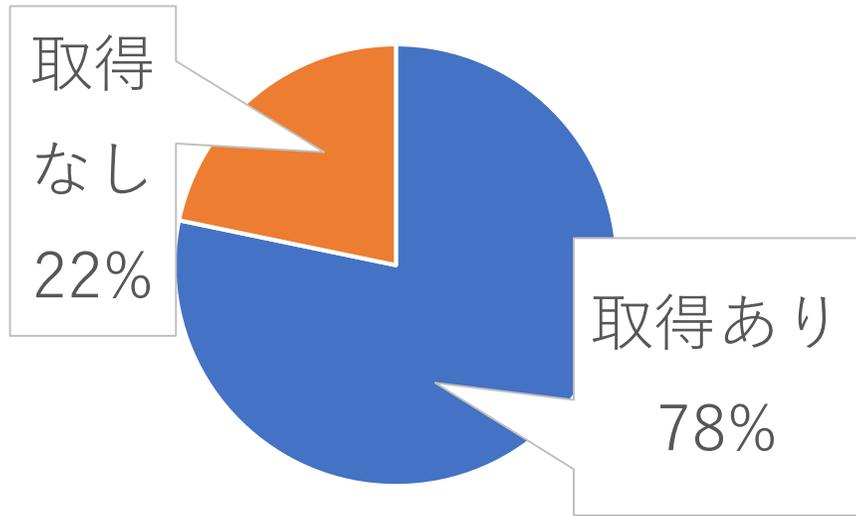
育休取得はキャリアの妨げになるか



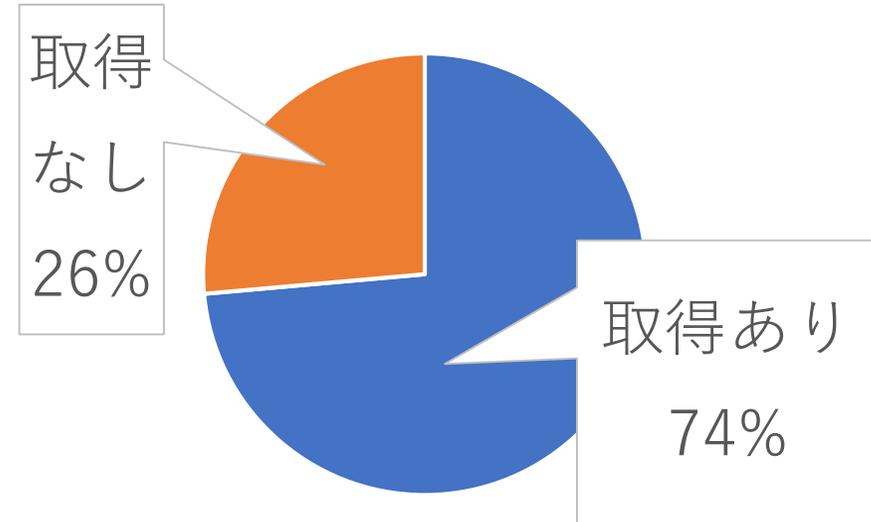
キャリアの妨げにならないと回答する割合を増やす方法を考えていく必要あり



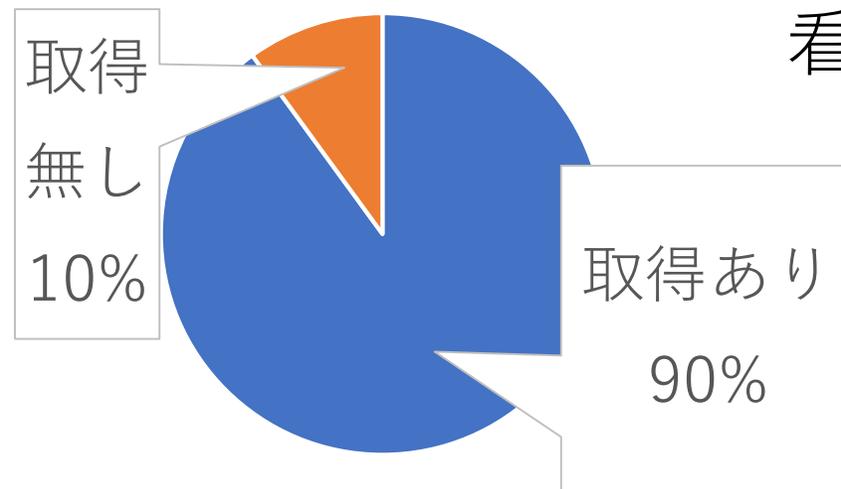
職種別 育児休暇取得割合



医師 23名



看護師 53名



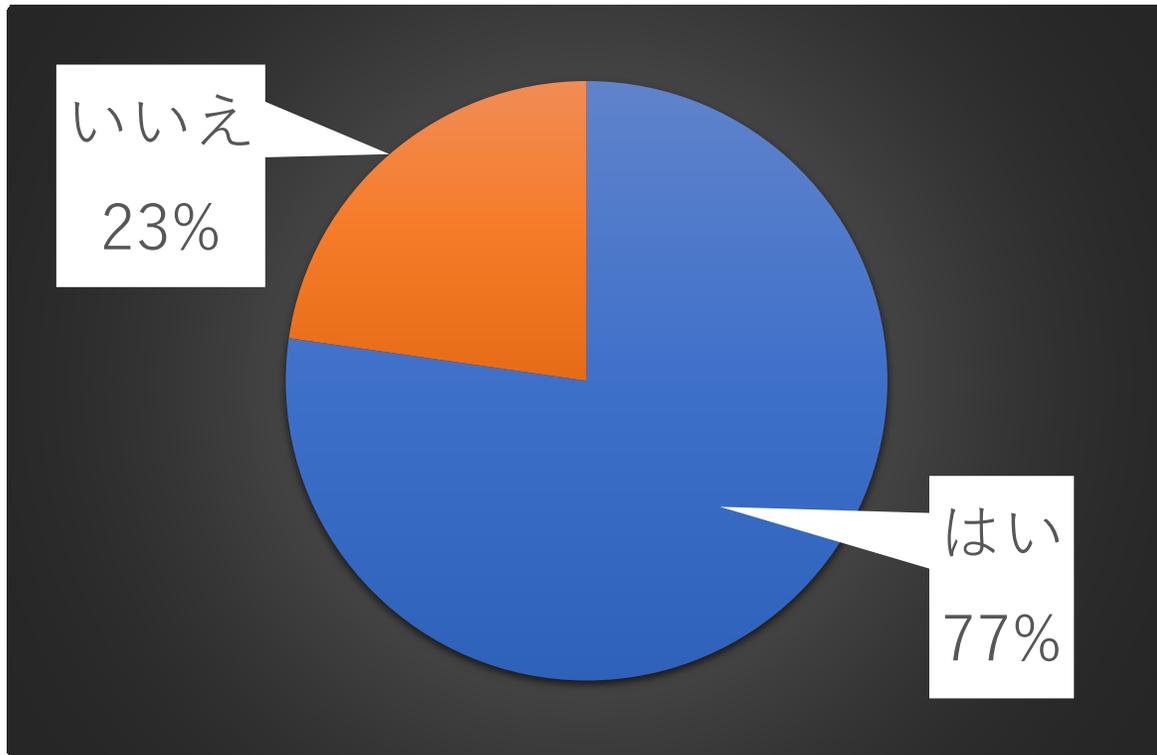
技師 10名

育休取得に職種間の大きな差なし

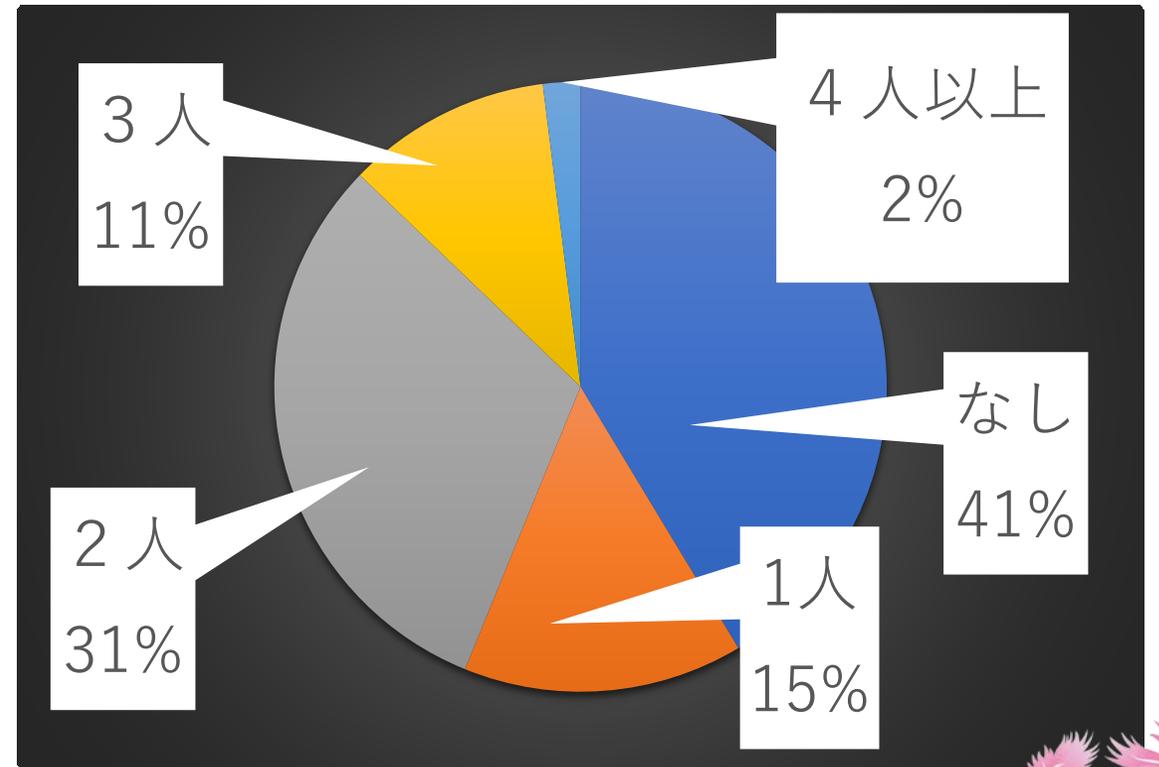


アンケート結果10 育児状況

自分以外にも
子供の世話をしている人がある (88名)



子供の人数 (203名)

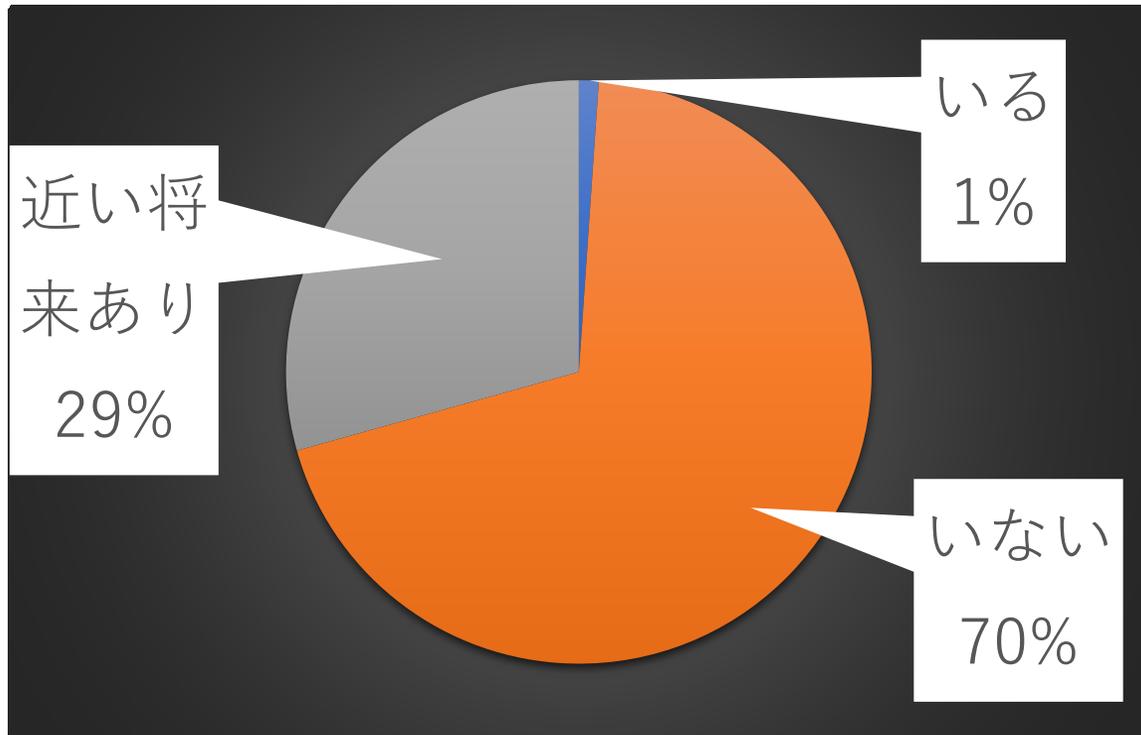


子供さんも結構います

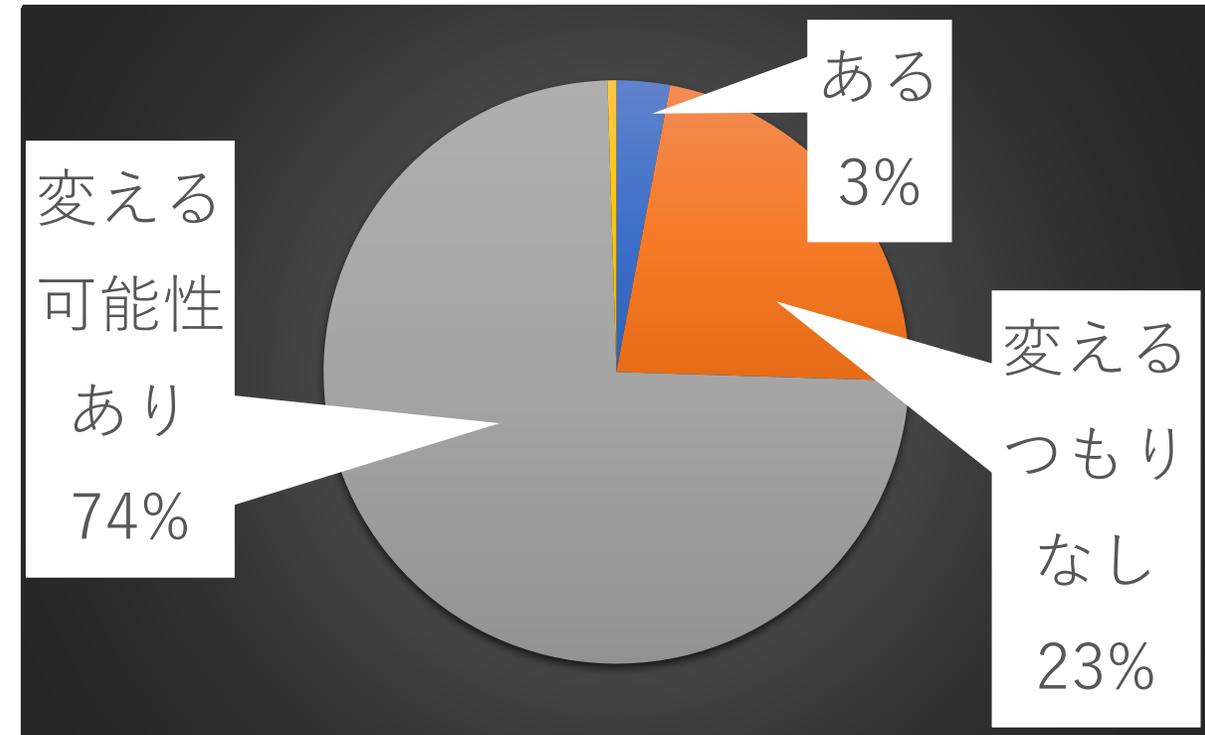


アンケート結果11 介護

介護すべき家族の有無(184名)



介護目的の勤務形態変更 (204名)



近い将来3割に介護の予定があるということは、1%の会員からの事前情報提供が有効
介護で勤務形態を変える必要がないと思う人を増やす必要がある。



日本国内で核医学診療に従事する女性の現状

- 女性上司が多く、セクハラが少ない、育休を取得できているなど、当初予想よりも働く環境は整備されていた。
- 核医学という領域に着いたことで知識を得た良い経験をしたと考えているスタッフが多かった。
- 医師、看護師、診療放射線技師等の職種による差はほとんど認めなかった。
- アンケート実施時に、PETに従事する看護師の会など、会員相互の交流を担保する組織が構築されていることも明らかとなった。

日本国内で核医学診療に従事する女性の課題

- 育休の取得がキャリアの妨げないならない、と女性自らが思うことができる環境整備
- 今後急速に増加する可能性がある、介護担当者予備軍への先輩からのアドバイスや交流のための環境整備
- 学会、研究会参加費援助の方策検討
- なでしこの会の組織としての発展

日本核医学会　なでしこの会は
核医学診療のさらなる発展と
核医学検査・治療を受ける患者さん
のために今後も貢献します

